

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 31 日作成)

委員会名	構造工学論文集編集小委員会	主 査 名：渡邊史夫
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会	委員長名：西川孝夫
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>1 編につき 3 名による査読付き論文集『構造工学論文集』を毎年 1 回刊行し、登載論文を中心としたシンポジウムを開催することにより、産・官・学、各界の研究者・技術者に学术交流・技術交流の場を提供し、構造工学の一層の発展を図ることを目的にする。</p> <p>2001 年度：・査読付き論文集『構造工学論文集』Vol.48B の刊行 ・第 48 回構造工学シンポジウムの開催(論文集掲載論文の発表講演および討議、特別講演会、建築・土木合同パネルディスカッション)</p> <p>2002 年度：・査読付き論文集『構造工学論文集』Vol.49B の刊行 ・第 49 回構造工学シンポジウムの開催(論文集掲載論文の発表講演および討議、特別講演会、建築・土木合同パネルディスカッション)</p> <p>2003 年度：・査読付き論文集『構造工学論文集』Vol.50B の刊行 ・第 50 回構造工学シンポジウムの開催(論文集掲載論文の発表講演および討議、特別講演会、建築・土木合同パネルディスカッション)</p> <p>2004 年度：・査読付き論文集『構造工学論文集』Vol.51B の刊行 ・第 51 回構造工学シンポジウムの開催(論文集掲載論文の発表講演および討議、特別講演会、建築・土木合同パネルディスカッション)</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>構造工学にかかわるあらゆる分野が論文の対象となるため、各運営委員会主査を委員に配するなどして、分野構成には特に考慮している。</p> <p>主査：渡邊史夫(京都大学) 幹事：市之瀬敏勝(名古屋工業大学)・中埜良昭(東京大学生産技術研究所)・林 康裕(京都大学防災研究所)・山田 哲(東京工業大学) 委員：石山祐二(北海道大学)・上谷宏二(京都大学)・小野徹郎(名古屋工業大学)・坂 壽二(大阪市立大学)・篠崎祐三(東京理科大学)・鈴木秀三(職業能力開発総合大学校)・時松孝次(東京工業大学)・西川孝夫(東京都立大学)・浜原正行(日本大学)・林 静雄(東京工業大学)・平石久廣(明治大学)・三谷 勲(神戸大学)・室田達郎(日本住宅・木材技術センター)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2003 年度予算	350,000 円	

項 目	自己評価	
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第 1 回小委員会 2003 年 6 月 10 日・10 名 第 2 回主査・幹事会 11 月 26 日・ 5 名 第 2 回小委員会 1 月 22 日・ 7 名	第 1 回主査・幹事会 9 月 29 日・ 5 名 第 3 回主査・幹事会 2004 年 1 月 22 日・ 5 名
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>2003 年度は第 49 回構造工学シンポジウムを日本学術会議(4 月 3 日 ~ 4 日)にて開催し、建築・土木合わせて約 370 名の参加者を得た。特別講演会は「近代土木遺産の意義と今後の課題」、建築・土木合同パネルディスカッションでは「設計から見た構造 ~ 構造工学におけるものづくり」について議論が交わされ、『構造工学論文集』Vol.49B 掲載論文 78 題の発表講演と併せて、有意義なシンポジウムであった。</p> <p>『構造工学論文集』Vol.50B 掲載論文として 90 題を採択のうえ刊行した。併せて第 50 回構造工学シンポジウムの企画として、特別講演会「確実に起こる大地震に備える」、建築・土木合同パネルディスカッション「都市地震工学の展開」を立案した(2004 年 4 月 8 日 ~ 9 日、日本学術会議にて開催予定)。</p> <p>委員会 HP アドレス：http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2003/50kouzou/top.htm</p>	
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) すべて滞りなく達成した。	
その他評価すべき事項		